

## 数学科調査資料 作成の観点

|       |  |  |
|-------|--|--|
| 書名    | <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <span style="font-size: 2em;">○○○○</span> <span style="font-size: 2em;">○○○○</span> </div>  | 発行者番号<br><div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">発行者名</div> |
| 項目    |  |  |
| 内 容   | <p><b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解できるようにするために、どのような工夫が見られるか。</li> <li>○事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けることができるようにするために、どのような工夫が見られるか。</li> </ul> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○数学を活用して事象を論理的に考察する力を養うために、どのような工夫が見られるか。</li> <li>○数量や図形などの性質を見いだし統合的・発展的に考察する力を養うために、どのような工夫が見られるか。</li> <li>○数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養うために、どのような工夫が見られるか。</li> </ul> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度を養うために、どのような工夫が見られるか。</li> <li>○問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養うために、どのような工夫が見られるか。</li> </ul> <p><b>&lt;数学的活動を通して数学的に考える資質・能力を育成するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○数学的活動を通して、上記三つの観点で示された資質・能力をバランスよく育成するために、どのような工夫が見られるか。</li> </ul> |  |
| 資 料   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○挿絵・写真・図表等の扱いに、どのような工夫が見られるか。</li> <li>○学習効果を高めるために、統計資料等には、どのような工夫が見られるか。</li> </ul>   |  |
| 表記・表現 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○見やすいレイアウトや読みやすい表現にするために、どのような工夫が見られるか。</li> <li>○記号、用語、単位等の表現には、どのような工夫が見られるか。</li> </ul>  |  |
| 総 括   | (全体的な特徴、その他)   |  |

|           |  |   |
|-----------|--|---|
| 書名<br>項目  | <b>新編 新しい数学</b><br>～MATH CONNECT 数学のつながり～  | 2<br><div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">東 書</div> |
| 内 容       | <p><b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b><br/>         ○章の学習は、「Q」、「例」、「問」で構成され、「例」と似た問題に「♡」マーク、典型的な誤答を「×まちがい例」、既習事項の確認を「ちょっと確認」、一授業の境目に「クイックチェック」が設けられている。節末「基本の問題」、巻末「補充の問題」では、本文参照ページが示され、振り返りができるように工夫されている。</p> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b><br/>         ○各節にある『Q考えてみよう』は働かしてほしい数学的な見方・考え方を問う問題が示されている。各節の終わりの『学びをふり返ろう「見方・考え方」』では各節で働かしてほしい数学的な見方・考え方がまとめられている。章末の「深い学び」では大切にしたい数学的な見方・考え方が示されている。</p> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b><br/>         ○各節の最初に、学習意欲を高めるための導入課題が設定されており、身の回りの問題を解決する活動から学習につながるように工夫されている。「数学のまど」や章末「数学×社会」では、社会で数学を活用している人や職業を紹介し、学習した数学の有用性を実感しやすいように工夫されている。</p> <p><b>&lt;数学的活動を通して数学的に考える資質・能力を育成するための工夫&gt;</b><br/>         ○「学びをふり返ろう」で、生徒が自ら働かせた数学的な見方・考え方を意識し、そのよさが分かるよう、内容のまとめりごとに学習を振り返る場面を設けられている。巻末に、章の学習後にその章で働かせた見方・考え方を振り返る「数学の目でふり返ろう」が設定され、同じ数学的な見方・考え方を前の学習や先の学習でも働かせていることを、具体例を通して確認できるよう工夫されている。</p> |   |
| 資 料       | <p>○4人の中学生キャラクターたちが身近な問題場面に直面して、対話しながら多様な考え方や気づきを促すように工夫されている。</p> <p>○「数学とスポーツ栄養士」など持続可能な社会を見据えた資料が取り上げられている。</p> <p>○デジタルコンテンツが使える内容には「D」マークが付けられている。</p>  |   |
| 表記・<br>表現 | <p>○単元の始めに、身の回りとの関連ページが、学習課題として「Q」、発展課題「数学のまど」が枠囲みで示されている。</p> <p>○新しい用語はゴシック太字で示され、ルビが振られている。</p> <p>○右ページ外側に章ごとのインデックスが黄色とピンク色で交互にある。</p>  |   |
| 総 括       | <p>○巻頭で「デジタルコンテンツの使い方」、「大切にしたい数学の学び」、「数学マイノート」、「この本の構成と使い方」が掲載されている。</p> <p>○章の導入には、主体的な学びのために、「章とびら」や「Q」、「学習課題」が設けられている。章末には、章の基本的な学習内容を確認するための「章の問題」が設けられている。巻末には、深い学びを振り返ることができるように、「もっと数学をつなげよう」が設けられている。</p>  |   |

|          |  |   |
|----------|--|---|
| 書名<br>項目 | <h1 style="margin: 0;">数学の世界</h1>  | 4<br><div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">大日本</div> |
| 内 容      | <p><b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b><br/>         ○章の学習内容を「活動」、「例」、「例題」、「Q」で身に付け、「プラス・ワン」で補充することができるように構成されている。「補充問題」では、自主的に取り組める問題を設けている。節末「たしかめよう」、巻末「補充問題」では、本文参照ページが示され、振り返りができるように工夫されている。</p> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b><br/>         ○巻頭「数学の世界へようこそ」では、問題発見・問題解決の流れ、数学的な見方・考え方が示されている。節内には、他者の考えが妥当かを判断する問題「判断しよう」や、他者の考えの内容を説明する問題「伝えよう」、学習を振り返ったり、ひろげたり、活用したりする問題「学びにプラス」が設けられている。</p> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b><br/>         ○導入では、新しい学習への興味・関心を引き出すように、身近な題材が扱われている。また、数学の面白さや楽しさを味わえるように、読み物「MATHFUL」が設けられている。巻末「課題学習」、「活用・探究」では、各章の学習が総合したり、日常生活や社会、他教科の学習と関連付けたりする課題が取り上げられている。</p> <p><b>&lt;数学的活動を通して数学的に考える資質・能力を育成するための工夫&gt;</b><br/>         ○巻頭「数学の世界へようこそ」で問題発見・問題解決の流れを示し、見いだした問題の解決の仕方が身に付くように工夫されている。また、「ノートの作り方」では、学習を振り返ることができるノートの書き方の工夫が紹介されている。章末「社会にリンク」では、仕事の中の数学を紹介している。巻末「課題学習」では、各章の学習を総合したり、生活や他教科の学習に関連したりする問題が扱われている。</p> |   |
| 資 料      | <p>○6人の中学生キャラクターたちが身近な問題場面に直面して、対話しながら多様な考え方や気づきを促すように工夫されている。</p> <p>○デジタルコンテンツが使える内容には「WEB」マークが付けられている。</p> <p>○「フード・マイレージ」など持続可能な社会を見据えた資料が取り上げられている。</p>   |   |
| 表記・表現    | <p>○学習を始める手掛かりとなる問題として「考えよう」が、学習のめあてとして「めあて」がゴシック太字で示されている。</p> <p>○新しい用語はゴシック太字で示され、必要に応じてルビが振られている。</p> <p>○右ページ外側に節ごとのインデックスがあり、内容領域で色分けされている。</p>  |   |
| 総 括      | <p>○巻頭で「この教科書の使い方」、「数学の世界へようこそ」、「ノートの作り方」が掲載されている。</p> <p>○各章に1箇所ずつ、問題発見、問題解決の流れが示されている。本文や章の終わりには、家庭学習に取り組めるように、「力をのばそう」、「活用・探究」、「社会にリンク」などが設けられている。巻末には、生活や学習との関連を図るために、「課題学習」、「MATHFUL」などが設けられている。</p>  |   |

|          |   |  |
|----------|---|--|
| 書名<br>項目 | <h1>中学校 数学</h1>   | 1 1<br><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">学 図</span> |
| 内 容      | <p><b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b><br/>         ○「Q」では生徒キャラクターの対話を、「例」では適宜ノート形式の解答を示し、「問」で構成され、「計算力を高めよう」を通して、基礎・基本を身に付けられるように工夫されている。典型的な誤答を「正しいかな？」で示されている。節末「確かめよう」では、本文参照ページが示され、振り返りができるように工夫されている。</p> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b><br/>         ○巻末「見方・考え方をまとめよう」では、問題解決の際の思考の流れが整理されている。各節にある「どんなことがわかったかな」では各節で働かしてほしい数学的な見方・考え方がまとめられており、また「見方・考え方」では育成してほしい見方・考え方の問題が示されている。</p> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b><br/>         ○各節の最初には、学習する内容への興味・関心を引き出すために身近な題材が扱われている。章末「できるようになったこと」で学習を自己評価し、「さらに学んでみたいこと」で自分の言葉で記入できるように工夫されている。章末「数学へのいざない」では、身の回りで活用されている数学が掲載されている。</p> <p><b>&lt;数学的活動を通して数学的に考える資質・能力を育成するための工夫&gt;</b><br/>         ○章全体が「具体的な事象」→「疑問・問題発見」→「数学的に表現した問題・焦点化した問題」→「数学的な見方・考え方を活用した予想」→「問題の解決」→「まとめ」→「生徒自身の新たな疑問」で構成されている。「数学的活動のページ」では、話し合いをベースに、生徒が主体的に疑問の発見から新たな疑問を発見する過程を協働的に行えるように工夫されている。</p> |  |
| 資 料      | <p>○2人の中学生キャラクターたちが身近な問題場面に直面して、対話しながら多様な考え方や気づきを促すように工夫されている。</p> <p>○「カーボンニュートラル」など持続可能な社会を見据えた資料が取り上げられている。</p> <p>○デジタルコンテンツが使える内容にはQRコードが付けられている。</p>  |  |
| 表記・表現    | <p>○単元の始めに、学習につながる課題のページが、学習課題としての「Q」、「目標」が枠囲みで示されている。</p> <p>○新しい用語はゴシック太字で示され、ルビが振られている。</p> <p>○右ページ外側に章ごとのインデックスが緑色と橙色で交互にあり、章と節がある。</p>  |  |
| 総 括      | <p>○巻頭で「この教科書を使った数学の学び」、「ノートの使い方」、「単位の書き方」、「QRコードの使い方」が掲載されている。</p> <p>○各領域の始めに、既習事項をまとめた「ふりかえり」のページがある。章の学習の中に「どんなことがわかったかな」が適宜設けられ、これまでの学習のまとめが示されている。章末には「深めよう」のページが設けられ、より発展的な問題が掲載されている。</p>   |  |

|          |  |  |
|----------|--|--|
| 書名<br>項目 | <h1 style="margin: 0;">中学数学</h1>   | 17<br><div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">教 出</div> |
| 内 容      | <p><b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b><br/>         ○各章の入口に「○章を学習する前に」、出口に「学習のまとめ」を設け、「たしかめよう」で基礎・基本を身に付けられるように工夫されている。章の学習は「Q」、「例」、「たしかめ」、「問」で構成されている。節末「基本の問題」、巻末「補充問題」では、本文参照ページが示され、振り返りができるように工夫されている。</p> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b><br/>         ○各節に登場するキャラクターの吹き出し部分には働かせたい見方・考え方が示されている。巻頭「大切にしたい数学的な見方・考え方」では数学の学習で働かせたい見方・考え方が紹介されている。各節にある「見方・考え方」では育成したい数学的な見方・考え方がまとめられている。</p> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b><br/>         ○章のはじめに、「Let's Try」で学習意欲を高める導入課題が身の回りの問題から設定されている。章末「数学の広場」、「数学しごと人」では、各章での発展的内容や知識、数学の歴史や社会で数学を活用している職業や考え方を紹介し、生徒が興味・関心をもちやすい話題が掲載されている。</p> <p><b>&lt;数学的活動を通して数学的に考える資質・能力を育成するための工夫&gt;</b><br/>         ○「みんなで数学をはじめよう！」や「学びのプロセスページ」で問題発見・解決の過程を示すことで主体的・対話的な学び方が意識できるように工夫されている。「はてな？」(生徒の疑問)から、主体的・対話的な学びを通して、「なるほど！」(わかったこと、解決のしかた)を見いだし、さらに「だったら！？」(新たな疑問)へつなげる数学的活動のサイクルを位置付け、学習が展開されている。</p> |  |
| 資 料      | <p>○4人の中学生キャラクターたちが身近な問題場面に直面して、対話しながら多様な考え方や気づきを促すように工夫されている。</p> <p>○「地球温暖化問題」など持続可能な社会を見据えた資料が取り上げられている。</p> <p>○デジタルコンテンツが使える内容には「まなびリンク」マークが付けられている。</p>  |  |
| 表記・表現    | <p>○単元の始めに、学習につながる課題「Let's Try」のページがあり、新しい学習のきっかけとして「Q」が枠囲みで示されている。</p> <p>○新しい用語はゴシック太字で示され、ルビが振られている。</p> <p>○右ページ外側に章ごとにインデックスが青色と緑色で交互にあり、章と節がある。</p>  |  |
| 総 括      | <p>○巻頭で「教科書の使い方」、「みんなで数学をはじめよう!」、「大切にしたい数学的な見方・考え方」、「工夫してノートを書こう」が掲載されている。</p> <p>○章の始めに、既習事項を振り返る「学習する前に」のページがある。章の学習の中に学習のプロセスのページが適宜設けられ、問題を見いだし解決し、振り返るプロセスが示されている。章末には章の基本的な学習内容を確認するための「学習のまとめ」が設けられている。</p>   |  |

|          |   |  |
|----------|---|--|
| 書名<br>項目 | <h1 style="margin: 0;">未来へひろがる数学</h1>   | 61<br><div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">啓林館</div> |
| 内 容      | <p> <b>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</b><br/>           ○各章の本文中に既習事項をまとめた「ふりかえり」や、既習事項から新しい学習につなげる「ひろげよう」が設けられている。章の学習は「例」、「例題」、「問」、「練習問題」で構成されている。章末「学びをたしかめよう」、巻末「もっと練習しよう」では、本文参照ページが示され、振り返りができるように工夫されている。         </p> <p> <b>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</b><br/>           ○巻頭「たいせつな考え方」では、働かせたい数学的な見方・考え方が説明されており、各節にある働かせたい数学的な見方・考え方の箇所に色下線で示されている。巻末にある「学びをいかそう」では数学的な見方・考え方を働かせ思考する問題が設けられている。         </p> <p> <b>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</b><br/>           ○節のはじめの「節とびら」では、QRコンテンツが配置されており、その章での学習内容にまつわる内容の理解が深められるように工夫されている。章末「数学ライブラリー」では、数学の歴史や社会で数学を活用している場面など、数学への興味・関心が高まるような話題が掲載されている。         </p> <p> <b>＜数学的活動を通して数学的に考える資質・能力を育成するための工夫＞</b><br/>           ○利用場面に「ステップ方式」を導入し、「問題を設定する、解決する、解決の過程を振り返って改善を図ったり新たな問題を設定したりする」といった数学的な問題発見・解決の過程を意識できるように工夫されている。わかったこと、できるようになったことを振り返り、育まれた資質・能力を確認して更に学びたいことに目を向けられるよう、「○章のあしあと」を設けられている。         </p> |  |
| 資 料      | <p>○2人の中学生キャラクターたちが身近な問題場面に直面して、対話しながら多様な考え方や気づきを促すように工夫されている。</p> <p>○「AEDと救命率」など持続可能な社会を見据えた資料が取り上げられている。</p> <p>○デジタルコンテンツが使える内容にはQRコードが付けられている。</p>   |  |
| 表記・表現    | <p>○節の学びがはじまる場面は「節のとびら」で、新しい学びのきっかけとなる問題は「ひろげよう」のマークで示されている。</p> <p>○新しい用語はゴシック太字でルビが振られている。説明は茶色枠で囲われている。</p> <p>○右ページ外側に章ごとのインデックスが青色で示されている。</p>   |  |
| 総 括      | <p>○巻頭見返しで「ICTの活用でひろがる数学の学習」、巻頭で「構成と使い方」、「ノートのかふう」が掲載されている。</p> <p>○各節に「学習のとびら」（導入課題）を設け、主体的・対話的で深い学びのために、言語活動のコーナー「説明しよう」、「話し合おう」が配置されている。学んだことにまつわる読み物「数学ライブラリー」や、学んだことを身の回りで活用する課題「学びをいかそう」が設けられている。</p>   |  |

|          |  |   |
|----------|--|---|
| 書名<br>項目 | <h1 style="margin: 0;">これからの数学</h1>  | 104<br><div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">数 研</div> |
| 内 容      | <p><b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b><br/>         ○各章の前や本文中に既習事項をまとめた「ふりかえり」が設けられている。章の学習は「Q」、「TRY」、「例」、「問」、「練習問題」を通して、基礎・基本を身に付けられるように工夫されている。節末「確認問題」、巻末「ぐんぐんのぼそうチャレンジ編」では、本文参照ページが示され、振り返りができるように工夫されている。</p> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b><br/>         ○巻頭「数学的な見方・考え方」や各節に登場するキャラクターの吹き出し部分は働かせたい数学的な見方・考え方が示されている。節内にある「考えよう」や章末にある「学んだことを活用しよう」や巻末にある「ぐんぐんのぼそうチャレンジ編」では数学的な見方・考え方を働かせ思考する問題が設けられている。</p> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b><br/>         ○各節の最初では、身の回りの題材を扱うことで、生徒が興味・関心をもって学習に取り組めるように工夫されている。また「やってみよう」や「調べよう」など、その章で学習した内容にまつわる活動的な話題が設けられ、興味・関心に応じた取扱いができるように工夫されている。</p> <p><b>&lt;数学的活動を通して数学的に考える資質・能力を育成するための工夫&gt;</b><br/>         ○新たな内容を学ぶ活動の中で、「見いだしたことがら」、「解決するための方法」、「成り立つ理由」といったことを説明する機会が設けられている。キャラクターが対話を通して学習内容の理解を深めていく姿が見えることで、授業における問題解決のプロセス部分（一般化、部分に着目、関係を考える、同じように考える、条件を変える）に焦点が当たるように工夫されている。</p> |   |
| 資 料      | <p>○4人の中学生キャラクターたちが身近な問題場面に直面して、対話しながら多様な考え方や気づきを促すように工夫されている。</p> <p>○「ポリオワクチン」など持続可能な社会を見据えた資料が取り上げられている。</p> <p>○デジタルコンテンツが使える内容には「L i n k」マークが付けられている。</p>   |   |
| 表記・表現    | <p>○活動を通して解決する課題を「TRY」マークで、学習の中で大事にしたい問いかけを「Q」のマークで示されている。</p> <p>○新しい用語はゴシック太字で示され、ルビが振られている。</p> <p>○右ページ外側に節ごとのインデックスが青色で示されている。</p>  |   |
| 総 括      | <p>○巻頭で「この教科書について」、「学習の進め方」、「ノートづくり方」が掲載されている。</p> <p>○章の始めには既習事項をまとめた「ふりかえり」のページがある。章末には、生活と学習の関連を図るために、「学んだことを活用しよう」が設けられている。巻末「数学旅行」では、社会との関わり方を考えることができる話題が掲載されている。後見返りに学び方の意識を高めるための「学びの自己評価」が設けられている。</p>  |   |

|          |  |   |
|----------|--|---|
| 書名<br>項目 | <h1>中学数学</h1>  | 1 1 6<br><div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">日 文</div> |
| 内 容      | <p><b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b><br/>         ○章のはじめに「次の章を学ぶ前に」、本文中に「確かめ」で既習事項を確認できるように工夫されている。章の学習は、「Q」、「例」、「問」で構成され、基礎・基本の定着のために、「まちがえやすい問題」が設けられている。節末「基本の問題」、巻末「補充問題」では、本文参照ページが示され、振り返りができるように工夫されている。</p> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b><br/>         ○章の扉で示されている問題に対するキャラクターの対話や吹き出し部分には、働かせたい数学的な見方・考え方が示されている。節末にある「学びに向かう力を育てよう」や巻末「数学研究室」、「活用の問題」では数学的な見方・考え方を働かせ思考する問題が設けられている。</p> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b><br/>         ○章末「学びに向かう力を育てよう」では、別冊の「ふり返しシート」を使って、更に発展した問題を考えることができるように工夫されている。章末「数学のたんけん」、巻末「数学マイトライ」では、数学への興味が高まるように学習内容に関連したコラムや課題が扱われている。</p> <p><b>&lt;数学的活動を通して数学的に考える資質・能力を育成するための工夫&gt;</b><br/>         ○巻頭の「数学の学習を始めよう！」で、数学的活動を通じた問題発見・解決の過程と学び方のポイントが示されている。巻頭の「数学的な見方・考え方を身につけよう！」で、数学的な見方・考え方を働かせながら学ぶことの大切さが説明されている。各小節の横欄に「大切な見方・考え方」が示され、生徒が数学的な見方・考え方を働かせられるように工夫されている。</p> |   |
| 資 料      | <p>○4人の中学生キャラクターたちが身近な問題場面に直面して、対話しながら多様な考え方や気づきを促すように工夫されている。</p> <p>○「車いすマラソン」など持続可能な社会を見据えた資料が取り上げられている。</p> <p>○デジタルコンテンツが使える内容にはQRコードが付けられている。</p>  |   |
| 表記・表現    | <p>○小節の始めに「めあて」が橙色のゴシック太字で、導入課題「Q」が緑色枠で囲われている。</p> <p>○新しい用語はゴシック太字でルビが振られている。説明は水色枠で囲われている。</p> <p>○右ページ外側に章ごとのインデックスが青色と緑色で交互に示されている。</p>  |   |
| 総 括      | <p>○巻頭で「この本の使い方」、「数学の学習を始めよう!」、「学びに向かう力を育てよう!」、「数学的な見方・考え方を身につけよう!」、「ノートのくふう」、「ICTを活用しよう!」が掲載されている。</p> <p>○章の始めに既習事項を確認する「次の章を学ぶ前に」のページがある。活用の場面では、切り離して使用する「対話シート」が設けられている。「数学のたんけん」や巻末「数学マイトライ」では、数学と社会の関連が図られている。</p>  |   |



数学科 調査資料 2

○分量について

| 内容               |                   | 学年 | 東書  | 大日本 | 学図  | 教出  | 啓林館 | 数研  | 日文  |
|------------------|-------------------|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 1                | 総ページ数             | 1年 | 321 | 324 | 319 | 343 | 299 | 316 | 319 |
|                  | ※目録に記載された<br>ページ数 | 2年 | 257 | 250 | 262 | 275 | 235 | 267 | 263 |
|                  |                   | 3年 | 289 | 302 | 320 | 311 | 279 | 324 | 300 |
| 2<br>領域別<br>ページ数 | A 数と計算            | 1年 | 106 | 112 | 120 | 126 | 102 | 110 | 104 |
|                  |                   | 2年 | 46  | 54  | 60  | 58  | 48  | 60  | 50  |
|                  |                   | 3年 | 82  | 90  | 92  | 94  | 80  | 98  | 78  |
|                  | B 図形              | 1年 | 68  | 74  | 72  | 74  | 72  | 74  | 60  |
|                  |                   | 2年 | 66  | 70  | 74  | 80  | 68  | 68  | 70  |
|                  |                   | 3年 | 84  | 82  | 100 | 94  | 82  | 92  | 78  |
|                  | C 関数              | 1年 | 40  | 40  | 42  | 36  | 34  | 36  | 38  |
|                  |                   | 2年 | 38  | 32  | 38  | 36  | 36  | 38  | 36  |
|                  |                   | 3年 | 34  | 34  | 40  | 32  | 30  | 34  | 34  |
|                  | D データの<br>活用      | 1年 | 24  | 26  | 33  | 32  | 27  | 26  | 34  |
|                  |                   | 2年 | 32  | 32  | 37  | 37  | 29  | 34  | 34  |
|                  |                   | 3年 | 14  | 18  | 19  | 17  | 17  | 18  | 14  |
|                  | 課題学習等             | 1年 | 83  | 72  | 52  | 75  | 64  | 70  | 83  |
|                  |                   | 2年 | 75  | 62  | 53  | 64  | 54  | 67  | 73  |
|                  |                   | 3年 | 75  | 78  | 69  | 74  | 70  | 82  | 96  |

○領域別教材数等について

| 内容              |               | 学年 | 東書      | 大日本     | 学図     | 教出      | 啓林館    | 数研     | 日文     |
|-----------------|---------------|----|---------|---------|--------|---------|--------|--------|--------|
| 1               | 総単元数<br>(章の数) | 1年 | 8       | 7       | 7      | 8       | 7      | 7      | 7      |
|                 | 2年            | 7  | 7       | 7       | 7      | 7       | 7      | 7      |        |
|                 | 3年            | 8  | 8       | 8       | 8      | 8       | 8      | 8      |        |
| 2<br>領域別<br>教材数 | A 数と計算        | 1年 | 4/10/22 | 3/12/36 | 3/8/20 | 4/11/26 | 3/8/20 | 3/9/23 | 3/9/36 |
|                 |               | 2年 | 2/4/8   | 2/6/17  | 2/4/8  | 2/4/10  | 2/4/7  | 2/4/10 | 2/4/18 |
|                 |               | 3年 | 3/8/17  | 3/8/30  | 3/7/17 | 3/8/19  | 3/7/15 | 3/8/19 | 3/7/28 |
|                 | B 図形          | 1年 | 2/6/13  | 2/8/30  | 2/4/11 | 2/6/12  | 2/7/12 | 2/5/12 | 2/6/20 |
|                 |               | 2年 | 2/5/12  | 2/5/25  | 2/4/11 | 2/5/15  | 2/6/13 | 2/5/13 | 2/4/24 |
|                 |               | 3年 | 3/7/14  | 3/9/32  | 3/7/15 | 3/8/16  | 3/8/14 | 3/6/14 | 3/6/26 |
|                 | C 関数          | 1年 | 1/4/9   | 1/4/13  | 1/4/6  | 1/4/7   | 1/4/7  | 1/3/7  | 1/4/14 |
|                 |               | 2年 | 1/4/9   | 1/3/9   | 1/3/6  | 1/3/7   | 1/3/7  | 1/3/7  | 1/3/12 |
|                 |               | 3年 | 1/3/5   | 1/2/10  | 1/2/5  | 1/3/5   | 1/3/6  | 1/2/5  | 1/2/11 |
|                 | D データ<br>の活用  | 1年 | 1/3/4   | 1/3/9   | 1/2/4  | 1/2/5   | 1/2/3  | 1/2/4  | 1/2/9  |
|                 |               | 2年 | 2/3/4   | 2/4/8   | 2/2/5  | 2/2/4   | 2/3/5  | 2/3/5  | 2/2/8  |
|                 |               | 3年 | 1/1/2   | 1/2/6   | 1/1/3  | 1/1/3   | 1/1/3  | 1/1/2  | 1/1/3  |

○日常生活や社会のできごとなどを取り扱った例（下記の用語は教科書の表記による）

|     |   |
|-----|---|
| 東 書 | 1年:現在のチームを分析しよう（データの分析と活用）<br>2年:スタート位置を決めよう（式の計算）<br>3年:コピー用紙はどんな長方形？（平方根）             |
| 大日本 | 1年:海外に住む友だちと交流しよう（数の世界のひろがり）<br>2年:どちらの電球を買う？（1次関数）<br>3年:パスタメジャーを作ろう（相似と比）             |
| 学 図 | 1年:震源までの距離は？（比例と反比例）<br>2年:CTスキャンと数学（連立方程式）<br>3年:丸太からとれる角材は？（平方根）                      |
| 教 出 | 1年:1000Wで温めたときの加熱時間は？（比例と反比例）<br>2年:期待値（確率）<br>3年:どちらを買うほうが得になるかな？（相似な図形）               |
| 啓林館 | 1年:1日乗り放題のチケットを買った方がいい？（方程式）<br>2年:AEDの重要性がわかるグラフ（一次関数）<br>3年:車は急にとまれない（関数 $y = ax^2$ ） |
| 数 研 | 1年:深海の水圧（比例と反比例）<br>2年:ダイヤグラム（一次関数）<br>3年:リレーのバトンパス（関数 $y = ax^2$ ）                     |
| 日 文 | 1年:表計算ソフトの活用（データの活用）<br>2年:猛暑日は増えている？（データの比較）<br>3年:どこまで見えるか調べよう（三平方の定理）                |

○その他

| 内容      | 学年 | 東書  | 大日本 | 学図  | 教出  | 啓林館 | 数研  | 日文  |
|---------|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| QRコードの数 | 1年 | 241 | 20  | 130 | 124 | 130 | 113 | 172 |
|         | 2年 | 192 | 12  | 83  | 78  | 103 | 93  | 123 |
|         | 3年 | 215 | 21  | 116 | 83  | 121 | 104 | 117 |